群馬フィールドトリップ

岩元勇都
The University of Tokyo

六月一日　土曜　晴

午前 8 時 55 分、駒場裏門集合。群馬フィールドワークへ。スケジュールの都合もあり、東大の学生は男子のみ。北京大の学生は女子のみ。李さん、この日も参加していて、私のチューター担当の学生。「どうして東京大学には女子学生が少ないのか」と聞かれたことを思い出す。

富岡製糸場にてガイドの方の説明を受ける。当時の環境は、さほど劣悪ではなかった。という、労働や生活の状況について説明を受ける。当時の所長の給料の高さに皆で驚きながら歩く。富岡製糸場には工女と呼ばれる女性労働者たちがいた。彼女たちを全国から集めるための工夫についても学ぶ。宿舎のあたりまで歩くと、バスを降りた川向かいの桑畑が見える。富岡製糸場に向かう道すがら、皆で桑の実を食べた。ここでは併設された学校に通いながら工場で働くことができたそう。制服の移り変わりや学校案内のパンフレットが紹介されていた。

午後からは達磨寺を訪れる。入り口の階段は長く、両脇から覆うような若葉が気持ちいい。ところどころにみずみずしい苔が見られた。どこかから水の音が聞こえていたことを思いだす。達磨寺では、達磨に模様を描き、目を入れる作業を体験する。風のよく通る場所でのこと。筆を使うのは久しぶりだった。李さんと共に、鶴を描き、亀を描き、心願成就と両脇に入れる。最後に左目だけに色をつけ、達磨が出来上がる。願いが叶ったら、右目にも色を入れるという。どれだけ転がしても、真っ直ぐ立つようになっていた。

富岡製糸場にて。晴。

六月二日 日曜 雨

午前 8 時 30 分、高崎駅近くのホテルを出る。

田中正造記念館では、一つ一つの展示について時系列での説明を受ける。記念館には中庭があった。そこには砂利でうまく起伏をつけた 5 メートル四方の川と土地のパノラマ模型がある。職員の方がその場を飛び回るようにして、身振り手振りで鉱毒の流れ、洪水の被害域を示す。

昼、うどんを食べ、渡良瀬遊水地へ向かう。

渡良瀬遊水地。ラムサール条約が結ばれている。かつての鉱毒対策により生まれた一地帯。土壌からはいまだに金属が検出されるものの、現在は数多くの鳥の声が聞こえる湿地となっている。雨の中でも、普段街中では聞かない種類の鳥を多く目にした。先ほどパノラマで説明を受けた現場を見る。人が通る道だけ草が少ない。背丈より高い葦の道を通る。規模が大きく、遊水池全体ですら見渡すことができなかったが、渡瀬川、さらに足尾全体を十分に想像することができた。公害により多くの人が苦しみ、今も痕を残す。大雨。雷電神社の由来通りの雷鳴。雨を避け、払うようにして皆でバスに乗り込む。帰路に着く。

雨。